



自動車整備の訓練に汗を流す研修員たち。実践的なカリキュラムを通じて、「職業人」としてのノウハウを身に付ける

CFPTの事務スタッフ。日本人専門家の活動を支える上で欠かせない存在だった



### 30年以上にわたる 中堅・上級技術者の育成

2010年12月以降、中東諸国に一気に拡大した民主化運動「アラブの春」。その発端となったのは、長年指摘されてきた若年層の失業問題。産業発展や社会の安定という観点から、「雇用」はどの国にとっても重要な問題だ。

アフリカの中でも民主主義が定着しているセネガルでは、毎年10万人の若者が新規に労働市場に参入している。その市場への技術者輩出に貢献しているのが、首都ダカールにある職業訓練施設「セネガル・日本職業訓練センター（CFPT）」。

そう、その「日本」の名からも分かるように、JICAは約30年にわたり、CFPTへの協力をハード・ソフト両面から続けてきた。

## セネガルの 産業を切り開いた 職業訓練校

産業発展を導く上で必要不可欠なのが職業訓練。多くの有能な若者を育ててきたセネガルの職業訓練校は、30年近くにわたる日本の協力を経て、西アフリカの産業人材育成の拠点として躍進している。



# History

次世代への財産

1980年代、国の経済の大部分を農業に依存していたセネガル。その脆弱な経済から脱却すべく、軽工業の発展につながる人材育成が早急に求められていた。

そこで日本は82年、セネガル政府の要請を受けてCFPT建設の支援を開始。技術者資格の取得者を2年間指導するコース開設に向けて、JICAは84年からセンターの運営や指導官への技術指導、カリキュラム作成などの技術協力を行った。対象は電気技術、電子工学、電子機械、自動車整備の4部門。当時、急速に普及していた自動車、パソコン産業でニーズが高まっていた「基礎技術」だ。

初代プロジェクトリーダーとして赴任していた御正隆信さんは、「知識を出し惜しみせず、すべて教えてくれる」と、日本は現地の人たちから高く評価されていました」と振り返る。

しかし、すべてが順風満帆に進んだわけではない。例えば、日本の製造業を支えてきた「5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）」の理念がまったく理解されない。役割分担が明確なセネガル社会では、機械を動かす人が清掃を行うことはほとんどなかったのだ。「これは自分の仕事ではない」という意識が抜けない人たちに、作業服に誇りを持ち、みんなと一緒に仕事に取り組むという日本式の価値観を伝えることに苦労しました」と、2代目のプロジェクトリーダーを務めた尾藤俊和さんは話

す。現場で何度も「やって見せる」ことはもちろん、JICAは日本で研修を行うなどの工夫に努めた。

### 仏語圏アフリカの拠点として 新たな地位を確立

CFPTは99年、情報処理、自動車工学、電子機械の3部門で、中堅・上級技術者免状の取得者を3年間指導するコースを新設。日本は無償資金協力を通じて新しい施設の建設を支援し、JICAは技術協力の一環として新課程のカリキュラム策定や技術指導のために専門家を派遣した。



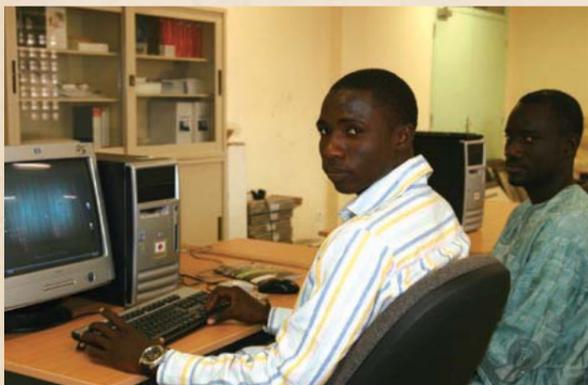
CFPT開所式の様子。当時の大統領らとあいさつをする御正隆信・初代リーダー

このように、時代のニーズの変化に応じて、脈々と続けられてきた日本の協力。CFPTの卒業生は「今、何が必要か自分で考えて対応できる」「技術レベルも高く規律正しい」と、セネガル産業界からの評判も上々だ。CFPTを巣立った卒業生は2000人以上。中堅・上級技術者の育成を牽引する中心的な役割を果たしている。またこうした実績が買われ、最近では国内の民間企業の社員教育も実施。国営電話会社SONATELなど現地企業の社員も約2500人が受講している。

そして現在、CFPTで学ぶ受講生の15%は国外からの留学生だ。99年からは仏語圏アフリカ16カ国の職業訓練指導員を対象にした第三国研修を実施。06～08年にはコンゴ民主共和国からの研修員受け入れ、マリへの教官派遣を行うなど、実に近隣20カ国以上の人材育成に貢献している。

さらにJICAは昨年、「セネガル日本職業訓練センター機能強化プロジェクト」を開始した。建設機械の保守整備を行う重機保守科、ビルのメンテナンスや配電などを行う建設整備保守科の2学科の新設に向け、訓練内容の検討などが行われているところだ。重機保守科の指導員訓練においては、コマツ（株式会社小松製作所）がダカールに開設しているトレーニングセンターとの連携が進んでいる。

西アフリカの産業人材育成の拠点として、その地位を確立したCFPT。日本人技術者の精神を受け継ぎ、今もなお躍進を続けている。



コンピューターを使った設計技術の講義を受ける研修員たち。現在もCFPTでは、西アフリカの産業振興への貢献が期待できる人材が学ぶ



機械整備の訓練。実習中は厳しい日本人専門家は、実は訓練生たちの良い相談役だ